

埼玉県 寄居町

視察日 令和元年 8月 5日

説明者 鈴木詠子委員長、笠原副委員長

【寄居町の概要】

埼玉県の北西部、荒川が秩父山地から関東平野に流れ出すところに位置する町で、「寄居」は「人が寄る町」「人が集う町」を象徴した歴史的な由来がある。人口33,573人、面積64.25km²（平成31年4月1日現在）。議員定数は16人。2本の国道・8つの駅を持つ交通の要衝として、近年では大手自動車メーカー四輪車生産工場が建設される等の発展を続けてきた。

【視察目的】

本市も市議会の広報として、年4回議会だより筑紫野を発行しているが、市民参加の点で課題がある。寄居町は、全国町村議会議長会広報コンクールで平成29年度、30年度に2年連続で最優秀賞（第1位）を受賞している。この取り組みを学び本市に活かすことで、より開かれた議会を実現し、住民参加型でさらにわかりやすい広報とするため行政視察を行った。

【質問事項】

（1）議会だよりの概要について

発行回数、ページ数、単価、編集スケジュールなど

- ・発行回数は定例会ごとに年4回。平均16ページ。13,000部発行。平成31年度予算額3968千円。
- ・スケジュール
 - ① 第1回委員会前約2週間 → 正副委員長打ち合わせを1回
 - ② 議会前約1週間（議運終了後）→ 第1回編集会議（議長、委員、事務局、委託業者出席）で執筆者、ページ割・レイアウト、テーマ、日程を決定
 - ③ 議会開会～議会閉会后数日後 → 一般質問原稿、写真を業者へ送付
 - ④ 閉会后約1～2週間 → 第2回編集会議（委員、事務局、委託業者）で校正し、その場で委託業者が修正。
 - ⑤ 閉会后約3週間 → 第3回編集会議（委員、事務局、委託業者）で校正、修正結果の確認は、正副委員長に一任
 - ⑥ 閉会后約4週間 → 校了、梱包部数の指示、印刷、製本
 - ⑦ 閉会后5～6週間 → 納品
- ・統一テーマを決めた表紙シリーズと内容を連動させている。
- ・1位を取った時は、内容と表紙を連動させる取り組みを始めていた。
- ・QRコードを多く使い、動きのある写真などを多く取り入れ、動画も取り入れている。
- ・「読まれない議会だよりは発行する価値なし」ということで、基本姿勢として、「日本一クオリティの高い議会だより」「とにかく手に取ってもらえる議会だより」を目指し編集する。
- ・研修として、議会広報クリニックを利用。
- ・予算、決算、重要案件に対する議員と市民の意見を必ず掲載する。
- ・議会改革を進めながら、政策サイクル（予算・決算審議→事業評価→市民との対話）を意識した編集を心がけている。

- ・議員全員でテーマを2、3決めて、議会として、全会一致で執行部に提言も行う。

(2) 議会だよりの編集全般について

写真、記事作成の議員と事務局の分担はどうなっているか。

- ・質問、答弁とも質問議員本人が作成する。

(3) 住民登場企画について

取材はどのように行われているのか。

- ・同じ人は掲載せず、議員が直接取材に行く。とにかく多くの住民を参加（名前・顔写真・コメント掲載必須）させ、声メーターとしてカウントしている。また、影響力のある住民（インフルエンサー）を登場させることで読み手への影響力拡大を図っている。

【質疑応答】

Q：議会だよりに掲載について町民へのお願いの仕方は？

A：この記事について声を聴こうということで、性別・年代についてバランスよく決めて、委員で手分けして探す。

Q：広報というより、議会改革の話になるが、政策サイクルについて、決算後に提言内容を決めるというのはどういうことなのか？

A：決算審議の質問数を持ち寄って、4項目まで絞り、全会一致で執行部へ提言して、それがどう予算に活かされたまで掲載している。

Q：全員協議会で4項目に絞るのにかかった時間は？

A：3回ぐらい。

Q：見出しのつけ方はどのようにしているのか？

A：最初のページと中身を連動している。1年前の取材で得た市民の声をもとに、議員がこの予算に注目している事を掲載し、そのあと一般質問をしているという経緯を掲載している。つまり、予算で質問したことが、どう決算で生かされているか、それにどう住民が注目しているかという継続性を意識している。行政に対して、議会がどう提言しているかということを市民に伝えるようにしている。

Q：業者の選定は？

A：指名入札で、細かく仕様書に書いて条件を設定している。2年契約としている。

【まとめ】

寄居町は、公聴機能に力を入れている。写真やレイアウト、キャッチフレーズなどの編集技術だけではなく、議会改革の努力こそが重要であり、それが広報に反映され、最優秀賞（第1位）という結果につながったとのことだった。市民の間にも「やっと取材に来たか」と心待ちにしている人もいる状況で、市民の議会への評価も徐々に高まっている。

本市においても、議会改革をさらに進めることにより、それを反映させ、寄居町のような市民に認められる広報にしていく必要がある。

【状況写真】



千葉県 芝山町

視察日 令和元年 8月 6日

説明者 貫川嘉一委員長、坂井慶子副委員長

【芝山町の概要】

芝山町は、千葉県の北東部、都心から60km圏内にあり、面積は43.24km²である。町の北側は成田国際空港に隣接していることから、町域の約8割が航空機騒音による土地利用の規制がある反面、空港周辺地域及び工業団地への企業の進出が見られる。

【視察目的】

本市も市議会の広報として、年4回議会だより筑紫野を発行しているが、市民参加の点で課題がある。芝山町は、全国町村議会議長会広報コンクールで平成30年度に優秀賞（第3位）を受賞しており、この取り組みを本市が学び活かすことで、より開かれた議会を実現し、住民参加型でさらにわかりやすい広報とするため行政視察を行った。

【質問事項】

（1）議会だよりの概要について

- ・発行回数、ページ数、単価、スケジュールなど

【回答】発行回数	年4回。定例会の翌々月の1日付けで発行。
ページ数	5月号と11月号は20ページ。8月号と2月号は16ページ。
単 価	発行部数2600部（フルカラー） 予算約140万円 平成31年度契約では、1冊あたり 16ページ：112円（税別） 20ページ：124円（税別）
編集スケジュール	1月、4月、7月、10月に委員会を4回開催。 入稿、初稿、2校、3校（校了）

（2）議会だよりの編集全般について

- ・写真や記事作成等、議員と事務局の分担をどのように振り分けているか。

【回答】入稿の際に、委員長の采配で担当を決定する。
特に取り決めはない。今後は、校了後に次回号の台割を決定したいと考えている。

- ・議会だよりの表紙、各ページの見出しは、どのように決めているか。

【回答】各ページに担当者を割り振っており、担当者が考え、委員会で協議している。

- ・一般質問の通知表を掲載するまで、どのような経過があったか。

【回答】岩手県金ヶ崎市の「自己採点」がきっかけであり、傍聴者の客観的な評価を実感するために導入した。
アンケートの内容は、議員と事務局で検討した。傍聴受付の際にアンケート用紙を配布し、退席する際に回収するよう依頼した。

- ・中学生でも理解できるように紙面構成に気を付けている。

(3) 住民登場企画について

- ・議員提案追跡調査など、取材はどのように行われているのか。

【回答】議員自らが、取材したい人と連絡調整をはかり委員会開催日以外にも時間をさいて取材に伺っている。

【質疑応答】

Q：予算140万円とあるが、業者は入っているのか。

A：編集委員会に業者は参加していない。

Q：業者の選定はどうしているのか。

A：随意契約である。よく知っているので、依頼しやすい。

Q：キャッチコピーは議員が考えているのか。

A：一般質問は議員。委員会が考えているものもある。

Q：予算に関連あるものを写真として掲載しているのか。

A：予算と関係しているもの、まちの楽しい写真を掲載している。

Q：福祉作業所はどう関与しているのか。

A：袋詰め作業を委託している。

【まとめ】

芝山町も、寄居町と同じく広聴活動に力を入れている。読む前に、手にしてもらおう工夫として、町民の写真やインタビューを掲載している。そして、議員提案の追跡調査と検証を続けている。マイナーチェンジを恐れず、新たなレイアウトも積極的に取り入れられている。

本市においても市民に対する公聴活動を重視することにより、住民参加型の広報にしていく必要がある。

【状況写真】

